

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 16, No. 4

神奈川県立生命の星・地球博物館

Dec., 2010



魚とエビの集積

～そこに化石が存在する
理由を知るために～

2010 年 9 月 11 日

小田原市寿町酒匂川スポーツ広場
田口公則 撮影

たぐちきみのり
田口公則（学芸員）

地層や化石観察の醍醐味の 1 つは、その産状を読み解く作業です。化石の主の死、その遺骸の運搬・堆積の過程、その後の石化作用などのプロセスを経て地層中の化石が存在しています。現在の海や川で遺骸が変化していく様子は、この化石化過程を理解するための基礎情報を与えてくれます。

今夏、大雨による増水で一変した酒匂川で、興味深い生物遺骸の集積がありました。大雨の数日後、水が引いた河川敷広場に大量の魚やエビの遺骸が散在していると、現地へ駆けつけました。広場にできたぼ地や用水路の水たまりなどでは、生きた魚やエビなどが取り残さ

れていました。写真は、翌日グラウンド脇の用水路の底で干上がっていた魚とエビの様子です。この写真だけを見ると、煮干しと干しエビを撒いたものと解釈する人もいるかもしれません。この魚とエビの集積は、水たまりに閉じ込められた生物が、水たまりの狭まりとともに濃集した結果です。

よく見ると、魚とエビの遺骸が集積している中央部周辺では、乾いた砂利が露出し、その外側には茶色の小礫が分布しています。もしかすると、水たまりが干上がる間際、生物が動き回ることによって一部の小礫が周りに押しやられたのかもしれません。